

2 学期始業式の校長メッセージ

新型コロナウイルスの感染者数は増加の一途を辿り、2 学期の始業式を緊急事態宣言下で迎えることになりました。

皆さん、元気澆刺、心穏やかに新学期を迎えられたでしょうか。御家族の皆様も、恙なく夏の日々をお過ごしでいらしたでしょうか。

1 学期の終業式から約 1 週間後に東京オリンピックが開幕し、大坂選手による聖火への点火や開会式の各国選手の入場にダイバーシティに就いて考える契機を得て、コロナ禍での開催にも意義を感じたのも束の間、選手の亡命、難民選手団の存在、LGBT への対応等、国際的にも国内的にも多くの課題があることが浮き彫りになりました。

また、8 月中旬の、夏としては異例の梅雨末期を思わせる豪雨に、国連気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の最新報告書を「人類に対する厳戒警報だ」と評したグテーレス国連事務総長の発言を思い起こしました。人間の活動によって温暖化が促進され気候危機に至っているのだ、人類が地球を破壊する環境危機の時代と言われる「人新世」の今をしっかりと認識して自らの生き方を省みなくてはいけないと、汗を拭きつつエアコンの温度設定を上げました。

40 日余りの夏休み、終業式翌日から 7 回のサザエさん放映の間に、あまりにも多くの出来事や考えるべきことが続き、皆さんの頭もパンク寸前ではないでしょうか。

日本の夏、特に 8 月は広島・長崎の原爆の日、第二次世界大戦終戦の日があり、おのずから平和に就いて考える機会が多く、更に今年は平和の祭典であるオリンピック・パラリンピックの開催の中、しかも新型コロナウイルス感染症パンデミックの続く渦中、世界平和への思いはより強まったように感じます。

全世界が平和を希求していたオリンピックとパラリンピックの狭間の時期に、アフガニスタンでは、反政府武装勢力のタリバンが、政権を掌握し復権したという報道が飛び込んできました。2001 年の米中枢同時多発テロを受けての米英軍の攻撃で旧政権が崩壊して以来のことです。

不安定な国際情勢、気候変動による地球の環境変化、新型コロナウイルス感染症パンデミックの拡大等、私たちは、今、未曾有の不確実な日々を生きています。この時代を確実に生き抜くために必要なことは、祈りではないかと、この夏、強く思う日々が続きました。

今日は祈りに就いて、一緒に考えてみましょう。私たち一人ひとり、かけがえのない存在です。光塩の「光と塩」の精神に関連して折に触れてお話しているので、耳にタコができたと言う声が聞こえてきそうですが、今日は、いつもと異なる聖書の箇所を引用します。

「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を失ったとすれば、九十九匹を野原に残して見失った一匹を見つけ出すまで探し回らないだろうか。そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。」(ルカによる福音 15 章 5～6 節)

この箇所を読むたびに、神様は群れから外れた一匹に至るまで心に掛けてくださっている

る、と私は安堵感を覚えるのです。評論家の福田恆存氏に、九十九匹と一匹の比喻をもとに、社会全体の善を追究する過程でこぼれ落ちてしまった誰かを救うところに文学の本質があると思案する著作があります。一人ひとりの人生をなおざりにしないという文学の眼差しは、人をかけがえのない存在として尊重する心温まる祈りに通じると確信し、国語科教員として人生を歩んできた佐野は、人は祈りによって救われる！と希望を抱いて生きてきたはずでした。

しかし、そう信じつつも新型コロナウイルス感染症パンデミックの拡大、国際情勢の緊迫、気候危機等の社会状況を目の当たりにして、心細くなることもあったというのが正直なところです。そのような中、この夏、ある本に出会い、心の目を開かされる思いがしました。

『青年と読む マルコによる福音』において、溝部脩司教様が、強い信仰によって病が癒えた女性のたとえ話の解説で「すぎる」という項目を立てて、

「『すぎる』とはこういうことです。この人しかいないという思いの丈を、思い切りぶっつける行為です。治っても治らなくても、との「のらりくらり」のお願いではありません。何がなんでも治してもらいたいという必死の思いなのです。現代人の私たちに一番欠けているのは、この必死の思いかもしれません。「このくらいで」、「まあまあ」で引き下がってしまうのです。いつもあいまいで、何でもいいのです。従って必死になって祈るという意味が理解できないのです。」

と書かれていたのです。この部分は、私にとって強烈なパンチでした。今迄の私の祈り方は、甘かった。私は、授業前の瞑想の時も、文章を書きながら行き詰った時も、タクシーが来なくて困った時も、試験問題の案が浮かばない時も、そして勿論病気で苦しい時も、心を込めて祈り、実際、神様の御加護をたくさん戴いてきました。お祈りしたらタクシーがあつという間に来た！という体験は、何人もの方と共有していますので、証言して下さる方もいらっしゃると思います。それでも、私の祈りに必死さが足りなかったのではないか。コロナ禍、気候危機、国際情勢、私たち一人ひとりが、心を込めて神様に縋りついて祈ったならば、祈りが念の塊となって状況の好転に繋がるのではないかと、今、皆さんと一緒に祈ってほしいと懇願したい思いでいっぱいです。

折しも、体育祭の時季が近づいています。体育祭の掉尾を飾る「PX パックス・クリスティ キリストの平和」では、皆で心をついにアシジのフランシスコの平和の祈りを唱えてきました。

アシジのフランシスコは、自然に親しみ、自然を愛で、その中で神の存在を感得して、神の慈しみと恵みに対して賛美と感謝を捧げ続けた人生を歩んだ聖人で、現教皇様のお名前の由来にもなっています。アシジのフランシスコが生まれたのは、12世紀の後半、日本と言えば鎌倉幕府開設の頃と重なります。アシジのフランシスコの誕生の約十年前に、日本では、鳥獣戯画を蔵することでも有名な京都梅尾の高山寺の開祖である明恵上人が誕生しています。明恵上人も、生きとし生けるものを愛し、自然と渾然一体となって信仰を深めました。明恵上人の詠んだ歌に

「あかあかや あかあかあかや あかあかや あかあかあかや あかあかや月」
という、月への感嘆の思いをまっすぐに吐露した印象的な作品があります。以前、ある医学部の小論文試験の課題文に、この歌を含む、川端康成のノーベル文学賞記念講演『美しい日本の私』の文章が引用され、「川端康成が引用した明恵の和歌『あかあかや……』は、いったいどのような意味だと思いますか。外国人に説明するつもりで、あなたの思う解釈を800字以内で自由に論じなさい。」との設問が提示されました。皆さんならどのように論じますか。日本人の自然随順の自然観や美意識に就いて説明することも可能です。或いは、中世の西洋にも、自然の懷に抱かれて神の御旨を生きアシジのフランシスコの存在があったことを考えれば、洋の東西を問わず、神が創られた自然を率直に褒め、愛する生き方を貫いた宗教者が存在したという観点から俯瞰的に述べることもできます。

アシジのフランシスコや明恵上人の生き方は、自分以外の存在を柔軟に受け容れるという繊細な心遣いに溢れると同時に、他者の多様性を受容するダイナミックな面をも含んでいます。加えてアシジのフランシスコと明恵上人とに共通する姿勢は、人知人力を超えた存在に思いを馳せ、人間の分限を弁えた真の意味での謙遜です。

科学技術が日進月歩で、近代文明の粋を満喫しているかに思える現代においても、人為ではどうにもならない課題が山積しています。祈るとは、その現実を認識し、頭を低くして人間を超えた存在に委ねる心を持ち、全力を尽くして己のすべてを差し出して必死で願うことではないかと、この夏、思い至りました。

アフターコロナの伸びやかな世界のことをイメージしたいですが、ウイズコロナ時代のニューノーマルの生活様式を、急にプレコロナの頃の状況に復することは至難の業です。昨年開催できなかった体育祭、今年度は、皆さんと先生方による開催ができないかと、競技の内容や形態、練習方法等を工夫しての安全な実施を目指して検討中です。熱き思いを演技や競技に込めて、青春の炎を燃やせることを願っています。

まず、今日は、体育祭の大団円「PX」を思い浮かべて、心を一つにアシジのフランシスコの平和の祈りを唱え、私たち一人ひとりが世界平和と地球環境の持続のためにできることについて神様からメッセージを戴けるよう、一意専心「必死で」祈りましょう。

神よ、私をあなたの平和の道具としてお使いください。
憎しみのあるところに愛を、
いさかいのあるところにゆるしを、
分裂のあるところに一致を
疑惑のあるところに信仰を、
誤っているところに真理を
絶望のあるところに希望を、
闇に光を、
悲しみのあるところに喜びをもたらすものとしてください。

慰められるよりは慰めることを
理解されるよりは理解することを
愛されるよりは愛することを
私が求めますように
私たちは与えるから受け
許すから許され
自分を捨てて死に
永遠のいのちをいただくのですから

お祈りで心の静まった皆さんに、お伝えしたいことがあります。

初・中・高等科元校長、前理事長でいらしたシスター太田が、8月23日に御帰天なさいました。初等科出身の皆さんは、シスター太田に英語をお習いする機会があったことと思います。シスターの御魂が天国で安らかでありますように、心を込めて祈り、神様の御加護をお願いしたいと思います。

さて、酷暑の中、感染予防に留意しつつの2学期の始まりです。現在蔓延しているデルタ株は、感染力が強いと言われています。毎日の検温、手洗い・うがい、マスクの着用をはじめ、体調管理に気を付け、「すべてのいのちを守る」ことを第一義に、油断と甘えを払拭して、緊張感ある日々を過ごしてください。

ワクチン接種が進んだ国々で、感染者数の増加が再び起こる等、ウイルスの変異に科学技術は対応しきれず、近代文明の力を以ってしても新型コロナウイルス感染症パンデミック収束の道はなかなか見えて来ません。コロナ禍は、私たちにとって災禍であると同時に、私たちに現代社会における生き方に就いて問い直すことを要請しているように感じます。私たち一人ひとりが、自分の人生に照らして「今・ここ」でなすべきことに気付いた時、そして自分にも他者にも認識的想像力を働かせて心を込めた祈りを捧げることができた時、コロナ禍の収束に一步近づけるのではないのでしょうか。

試験・試合等の真剣勝負、そして心身の不調等に際し、私たちは、自分一人で凜として向き合わなくてはなりません。その時、心からの祈りが大きな支えになることを願っています。人間一人ひとりの成長は、その人の本領において力を発揮することで促されます。二学期も豊かな学びに向けてのチャレンジを続け、全幅の人生を歩んでください。

TANUKI レポートコンテストへの挑戦も期待しています。賞品の準備もできています。学びを深め、探究の姿勢を涵養することで、幸せを引き寄せることができますように。今日も一日、ファイト！です。

喝！